

事例3

< 事例概要 >

- ・ 40歳代、体外受精で胚移植を実施。
- ・ 胚移植9日後、尿妊娠判定を実施し、陰性を確認。数日後、月経がきたため、次のホルモン剤の使用を開始した。約2週間後の受診時、経腔超音波検査を実施し、その際患者から腹痛等の訴えはなかった。翌朝、経験のない強い腹痛、嘔吐、下痢があったが、医療機関を受診しなかった。その翌日、自宅で死亡した。
- ・ 死因は、卵管破裂による出血性ショック。解剖有、死亡時画像診断（Ai）有。